

テーマ「言葉を育てる。イメージ力を育む。」
～おはなしやわらべうたを保育に取り入れて～

発表者 (九州地区 長崎県)
認定こども園 いなさ幼稚園 園長 田中元子



はじめに (園の概要)



認定こども園 いなさ幼稚園は、長崎市の中心部から少し西、JR 長崎駅の対岸に位置し、香港、モナコと共に新世界三大夜景に選ばれた稲佐山の麓に建つ。

近くに三菱電機や三菱造船所があり、昔は漁業も盛んで、魚市場も近かったので園児もかなり多かったと聞いているが、最近では、高齢化が進み、園児も 30 名足らずにまで減った事もあり、平成 27 年度から、幼稚園型認定こども園に移行した。現在は、2 歳児から 5 歳児まで 49 名が在籍中。

モンテッソーリ教育を取り入れているので、3 歳から 5 歳児までは、縦割りクラス。子ども達の主体的な活動の時間を大切にしながら、モンテッソーリの生活、感覚、言語、数などの活動にも誘いかけている。

大切にしているのは、子どもが生活の主体者となって、園の生活を自由に使いこなせるようになること。教師は、子どもの「私が一人で出来るように手伝ってください」という気持ちを大切に、「訂正しながらではなく、何度でも教えなさい」というモンテッソーリ女史のことばを実践すること。一人一人と、人間として対等に向き合うこと。

・クラス構成 (平成 28 年度)

	ゆり(5)	すみれ(23)			つくし(21)			合計	
認定	2歳・満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児	3歳児	4歳児	5歳児		
1号	1	2	10	7	3	6	6	35	49
2号 (3号)	4	3		1	3	3		14	

・職員

園長 1、 副園長 1、 保育主任 1、 教諭 3、 事務 1、 学園管理 1
非常勤教諭 3、非常勤保育士 1、 預かり保育担当 1、 園バス運転手 1、 依託調理員 1

I, 研究のテーマ設定の理由

①ルーツとしての「おはなし」(園の歴史)

(1)聞くことを大切にした教育

いなさ幼稚園は、昭和 2 年創立。

創立当初から夫婦で幼稚園に関わり (約 10 年間は主事として勤務)、昭和 17 年から約 40 年間、設置者、園長を勤めた松尾利信 (私の祖父) は、童話作家、また、口演童話の語り手として活躍した。



園章「犬張り子」は、祖父が口演童話の師と仰いでいた久留島武彦氏からいただいたと聞いている。保育教材のジャクエツと同じマークである。

久留島武彦は明治6年に大分県玖珠に生まれ、「日本のアンデルセン」とも呼ばれている童話家で、明治43年から34年間、東京で早蕨幼稚園という園を経営していた。



久留島武彦



当園の初代の園歌も、久留島武彦の作詞らしい。

戦前、戦時中（太平洋戦争）は、桃太郎主義教育という教育思想が流行り、歌詞にも思想の影響が色濃く出ていたせいか、戦後は、祖父が普通の（？）歌詞に変えたと思われる。



利信の著書

園長が童話家であったということで、絵や映像を通してよりも、耳から聞く言葉を通しての教育が大切にされてきた。

『テレビによる映像をもととし、または、絵本の絵を手がかりとして、こどもの想像力をたかめることも大切でしょうが、絵のないラジオ、または、本のものがたり、即ち、ことばによって考える力を養い伸ばすということも、子どもたちの成長の過程においては、大切である....』

（幼年童話「かちかち山のうさぎのこ」はじめにより）

以上のような背景があり、「この幼稚園のルーツはお話にある。長年この幼稚園で大切にされてきたものを受け継いでいきたい」という思いをずっと抱いてきた。

(2)私が出会った“ストーリーテリング”と“わらべうた”

おはなしを勉強しようと思い、門を叩いた「長崎おはなしの会」は、東京子ども図書館の流れをくむ語り（ストーリーテリング）の勉強会だった。

おはなしをたくさん聞いた子ども達は、イメージの世界を広げ、本の好きな子どもに育っていくと考える。併せて音楽も、素朴で子ども達の体の中に自然と入っていくような「わらべうた」を、保育にたくさん取り入れたいと思い実践してきた。

「おはなし」や「わらべうた」が、現代の子どもにとっても十分意義深いものだという思いで実践してきたが、それが私の思うような役割を果たしてくれているかどうかは、今のところ自己満足でしかないかもしれない。この機会に、専門家や多くの先生方のご意見を聞きたいと思う。

(3)私の思いと、園の先生達の姿のずれ

(1)、(2)のような思いがあり、私なりに実践してきたが、これまでは、園のどの先生も同じように保育におはなしを取り入れるというわけではなく、月に1～2回、私と、「長崎おはなしの会」の仲間であるもう一人の教師がクラスを訪ねて「おはなし会」をするという状況。

それでは教育的効果も不十分だと反省し、職員にも積極的に取り組んでほしいと思うが、そのためには実際どうしていったらいいのだろうか。

また、保護者に家庭での様子を尋ねたり、園の取り組みを伝えることも足りなかったと考える。

②日常の園児の姿を見て、もっと豊かな言葉の表現をしてほしいと感じる事が多い

日頃、園児に何か質問をしたときに、単純な返事しか帰ってこないことが多い。

例：教師「遠足、どうだった？」 園児「楽しかった」

教師「お茶会（茶道教室）どうだった？」 園児「楽しかった」

教師「昨日のお休み、どうでしたか？」 園児「楽しかった」

もっと豊かな言葉の表現ができないものか？

しかし、振り返ってみるとこれは質問の仕方にも大きな問題があるのではないか？

私たちこそ、もっと豊かな言葉の表現で子ども達に質問できるようになった方が良いのではないかと考える。

③2歳児のよりよい言葉の育ちの為に

認定こども園になり、小規模保育施設を併設し、2歳児（3号認定児）5名のクラスを作った。

個人差の大きい年齢で、まだほとんど話さない子ども、大人の話聞いて語尾だけをまねする子ども、片言だがよく話す子どもなど様々な発達段階にいる。

その2歳児達の生活の中に、わらべうたやことば遊びをたくさん取り入れたいと考えている。

暖かな人の声と表情でわらべうたを歌って聞かせたり、わらべうたで体遊びをすることは、情緒の安定や言葉の発達に繋がるし、日本語の美しさ楽しさを体で感じる経験を積むことは、幼児になってからの言葉の世界を広げるのに役立っていくと考える。

Ⅱ、研究の実際（実践していること）

①おはなし（ストーリーテリング）

おはなしは、何年か前から、私と「長崎おはなしの会」の仲間である職員が、月に2回、各クラスの帰りの集まりの時間に「おはなし会」をしている。

これは、東京子ども図書館の松岡享子先生のおはなし会のやり方に倣って行っている。

わらべうたは、月1回の夜の勉強会に、クラスを持っている先生達は全員参加し、実践している。

おはなし会の流れ

4 歳児、5 歳児のクラスの帰りの集まりの時間。語り手の近くに集まる。

- 1, 「お話し会を始めます。お話しのローソクに火をつけるね。」
(お話しの内容、聴き手の状況によっては、火はつけない)
- 2, 「むかしむかし、あるところに…」 と、お話しを始める。
- 3, 終わったら、聴き手の誰かを選んで、ローソクを消してもらう。
「このおはなしのろうそくは、消すときに願い事をするとその願い事が叶うと言われています。皆さんも○○ちゃんと一緒に心でねがいごとをしてください」と、ことばをかける。
- 4, 最後に、その日に語ったお話のテキストや絵本を紹介する。



1 年間に聴いたおはなし(2012)

今年度は、まだ 1 学期しか過ごしていないので、短いおはなしと、わらべうたやことば遊びを組み合わせ、その日のプログラムを作っている。

6月のおはなし会（古門）

- ・かたつむり（詩／劉御作）
- ・おやふこうなあおがえる
（朝鮮の昔話）

7月のおはなし会（田中）

- ・ほれほれあめが
(朝鮮の伝承)
- ・おいしいおかゆ
(グリムの昔話)



・おはなしの年間計画（今年度は昔話を中心に語りたい。）

おはなし年間計画表 平成 28 年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月
おはなし		ヤギとライオン (トリニダード・トバコの話) ぼくにげちゃうよ (マーガレット・ワイズブラウン作)	おやふこうなあおがえる (朝鮮の昔話) こすずめのぼうけん (ルース・エインワース作)	おいしいおかゆ (グリムの昔話) ねずみのすもう (日本の昔話) アナンシと五 (ジャマイカの昔話)	なら梨とり (日本の昔話) おだんごばん (ロシアの昔話)	ミアッカどん (イギリスの昔話) 三枚のおふだ (日本の昔話)
人形劇	不思議な棒	金のおの銀のおの	おちやわんぼくりこ	若返りの水	すいかどろぼう	月夜のたぬき
詩・ろあわせ	ひとつひらいたチューリップ (数えうた) あんなよげだすおきさん ちようちようちようちよ (朝鮮の伝承)	あかちゃんあかちゃんなげなくの (わらべうた) くまさんのおでかけ (中川李枝子作) だだっこさん (フランスの伝承)	ほれほれ雨が (朝鮮の伝承) かたつむりおかしいな (劉御作) これはいつもおくれがちな時計	おやすみあかちゃん (清水哲男作)	心のやさしいあひるたち (ダニエル・ハルムス作) ころりやころりや ちんころり (日本の伝承)	ひいやふうや きつねのおうち (ヴァルガ カタリン作) 赤いふくろに何いれよう (村山かず子作)

	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
おはなし	ひなとりとネコ (ミャンマーの昔話) てぶくろ (ロシアの昔話)	だめといわれてひっこむな (アルフ・プロイセン作) 年越しのたき火 (日本の昔話)	エバミナンダス (ブライアント作) こぶじいさま (日本の昔話)	ねずみじょうど (日本の昔話) 密林-きれいなひょうのはなし (工藤直子作)	ついでにペロリ (デンマークの昔話) 鳥のみじい (日本の昔話)
人形劇	未定	未定	未定	未定	未定
詩・ろあわせ	こんこんこやまのこうざは (佐賀のわらべうた) やまのこもろうた (工藤直子作)	キツネノクッタ はひふべ (谷川俊太郎)	このぶたちびすけ (イギリスの指あそび) ひとつひばしでやいたもち (数えうた)	ひとつひろったまめ (数えうた)	えんどうめそらまめ えんどう豆三ツくって ふたりのあきごはん (西ゆう子作)

②わらべうたあそび

- ・2 歳児には、ふれあいあそびや子守歌、となえことば等を
をたくさん取り入れたいと思っている。
また、子育て支援のクラスでもわらべうた遊びを継続的に
取り入れている。
- ・幼児には、役交代、鬼遊び、手合わせなどのわらべうたや
あそびことば遊びを日常の遊びの中で、また、集団遊びとし
て、そして、発表会などでも取り入れている。



わらべうたの年間計画

わらべうた年間計画表 平成 28 年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月
全 員	さよなら チューリップシャリッ たんぽぽ たけんこがはえた トウキョウト ネズミネズミ	よもぎしょうぶの いちばちとまつた	でんでんむし まいまい キャーロノメダマニ あめあめやんぐれ かえるがなから はたるたるたる (鑑賞曲)	そうめんや おおなみなみで きさにたんざく ももや	でんでんまわり どんぼとんぼ コロハジイチャンニンドコロ	どんぐりころちゃん おつきさまえらいの ホイッチニノダルマサン ウチノウラノ
幼 児	たけのこめした れんげつもか ひばりひばり	おちやをのみに	はたるこい あめこんこんふるなよ すいかばたけに	しんわりたんわり やなぎのしたには たなばたのかみさん		キリスチオン オツキサマクグルハ いもにんじん
1, 2 歳 児	ととけっこー にぎりばつちり ゆすらんかすらん	チュチュコッコ トマレ	こりやどこのじぞうさん	でこちゃんはなちゃん カクカクカクレンボ	アイニサラサラ コロジッチャネンドコダ	ダルマサンダルマサン

	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
全 員	どんどんぼしわたれ かれっこやいて じゃんこじゃんこ	こんこんさん オモヤノモチツキ ふくすけさん ダイコンツク	かれっこやいて いなさんやまから もぐらどんの さるのこしかけ モグラモックリショ オニサノルスニ	うしぬばんそれぞれ ゆきはいつしょう ゴドモガゼノコ	どうどうめぐり チビスケドッコイ ずくぼんじよ
幼 児	イモニメガデ いものたの	てんやのおもち おしょうがつどこまできた だいこんかぶらの	おんしょうしょうしょう ゆうびんはいつ みみずが三びき	まめつちよ うえからしたから	くつかくし うぐいすのたにわたり ひふみよ わらびぜんまい
1, 2 歳 児	ムギツキ コメコメ	このここのこ	ネズミネズミドイキャ	うまはとしとし おすわりやす	センシュカンノンサン

③人形劇

利信園長は、人形劇にも力を入れ、自作の数々の人形を使って、たびたび、子ども達に演じていた。後を継いだ前園長も、その人形を使って、月に1度の誕生会の時に人形劇をしていたが、晩年は、保護者に委ね、現在は「お母さん人形劇団」として、10名近くの団員が、誕生会のために集まって練習し、上演してくれている。



人形劇を見ながら、園児は、登場人物に共感したり、「(そっちに行っちゃ) だめ、だめ！」とか「そっちにいるよ！」などと声を上げながら、たまには隣の子とも肩を寄せ合いながら見ている。そういう経験の積み重ねが、善悪の判断や、人の気持ちがわかるようになることにも繋がるのではないだろうか。

Ⅲ、研究の検証 (おはなし、わらべうたで育つ力)

①おはなしやわらべうたの幼稚園教育要領の中の位置

・領域「言葉」

1, ねらい

(3)日常生活に必要な言葉がわかるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。

3, 内容の取り扱い

(3)絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結びつけたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。

(「教育要領解説」の P154 にも、幼児の絵本、物語の楽しみ方の特徴や注意すべき事項について触れてある。)

また、領域「表現」でも、ねらい(3)に、「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」とあり、解説書 P170 には、幼児期に心を揺さぶられるような豊かな体験を友達や教師と一緒にすることで、感性がより豊かになっていくことが述べられている。

わらべうたについての記述は、幼稚園教育要領には出てこないのが残念だが、

領域「言葉」の内容

(7)生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。

(8)いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。

この二つの項目に、大いに関連すると思う。

②子ども達の反応を記録する。

今回、お話会の記録を取ってみることにした。まだ始めて間もないので、子ども達の変化や意義についてはわからないが、担任がおはなしの途中の子ども達の表情を観察したり、担任自身がおはなしに関心を持つことには繋がっていると思う。また、お話を覚えて語ることは少しハードルが高いかもしれないが、今後、各担任も、聴くことに重きを置いた保育を考える上で、参考になると考える。



第3回 おはなし会記録

平成28年度

6月28日(火)		参加者: ずけりぐみ(年長児4名、年中児7名) 大人: 田中(他)	語り手: 田中 子 部屋: すずめ組
本日のプログラムの流れ	・ほれほれあめが(朝鮮の伝承)	年間テーマ ・言葉の世界を広げる ・イメージ力を育む	・雨の季節なので、「ほれほれあめが」をとおして、気象に興味を持ち「べそかき」「おでんとさん」等耳慣れない言葉にも親しんでほしい。
	・雨こんこんふるなよ(おらべうた)	・雨 ・鳥への興味 ・こすずめの気持ち ・お母さんへの愛情	・「雨こんこん」でいるんな鳥の名や鳴き声に親しみ、「こすずめのぼうけん」を聞く導入にしたい ・「こすずめのぼうけん」では、子ども達がこすずめの気持ちになって聞いてくれたら良いと思う。
聴き手の様子	・こすずめのぼうけん(ルース・エインワース作 石井桃子訳)	・こすずめのぼうけん	・こすずめのぼうけん
	・こすずめのぼうけん	・こすずめのぼうけん	・こすずめのぼうけん
担任の感想	・こすずめのぼうけん	・こすずめのぼうけん	・こすずめのぼうけん
	・こすずめのぼうけん	・こすずめのぼうけん	・こすずめのぼうけん
語り手の感想	・こすずめのぼうけん	・こすずめのぼうけん	・こすずめのぼうけん
	・こすずめのぼうけん	・こすずめのぼうけん	・こすずめのぼうけん

第4回 おはなし会記録

平成28年度

6月27日(月)		参加者: ずけりぐみ(年長児6名、年中児9名) 大人: 野宮	語り手: 古門 部屋: ずけりぐみ
本日のプログラムの流れ	・かたつむり(創作出来演劇)	年間テーマ ・言葉の世界を広げる ・イメージ力を育む	・梅雨の時期に出る小動物「かたつむり」の体の様子に興味を持ち、「あつたてい」というメッセージを伝えたい。
	・おやふくあめあめ(創作出来演劇)	・梅雨の季節 ・かたつむりの趣味 ・母の言葉と関係	・「おやふくあめあめ」の歌にこめられた歌詞を「おやふくあめあめ」として受け止めてほしい。
聴き手の様子	・かたつむり	・かたつむり	・かたつむり
	・おやふくあめあめ	・おやふくあめあめ	・おやふくあめあめ
担任の感想	・かたつむり	・かたつむり	・かたつむり
	・おやふくあめあめ	・おやふくあめあめ	・おやふくあめあめ
語り手の感想	・かたつむり	・かたつむり	・かたつむり
	・おやふくあめあめ	・おやふくあめあめ	・おやふくあめあめ

②保護者へのアンケート

いなさ幼稚園の保護者は、「おはなし」に関して、どんな考えを持っているだろうか？
また、「最近のお母さん、お父さんは、昔話を知らない」と言われて久しいが、実際どうなのだろう？と思い、アンケートを実施してみた。

- ・回収率 45 家庭中 28 枚回収 (総家庭数の約 60%)
- ・回答者 (お母さん... 28 名) の年齢
20 歳代... 3 名 30 歳代... 13 名 40 歳代... 12 名

質問1

①小さい頃に、昔話などを誰かに語ってもらったことはありますか？ (ある・ない)

	20 歳代	30 歳代	40 歳代
ある	3	10	10
ない	0	2	2
わからない		1	

②ある方は、どなたに語ってもらい、また、心に残っているお話はありますか？

(回答には、絵本の読み聞かせを含む)

	20歳代	30歳代	40歳代
誰に語ってもらった？	・母 2 ・親 1 ・先生 1	・母 8 ・父 1 ・祖母 2 ・祖父 1 ・先生 2	・母 6 ・祖母 1 ・祖父母 1 ・先生 2 ・覚えていない 1
心に残っている話	・桃太郎 6 ・浦島太郎 2 ・花咲かじいさん ・はちかつぎ姫 ・泣いた赤鬼 ・さるかに合戦 ・かさじぞう ・こぶとりじいさん ・花咲かじいさん ・おむすびころりん ・みにくいあひるのこ ・えんどう豆の上に寝たお姫様 ・北風と太陽 ・七夕の話 1		

質問2

日本の昔話をどれくらいご存知ですか？ 知っているものに丸をつけてください。

回答者の年齢	20歳代		30歳代		40歳代	
	知っている	知らない	知っている	知らない	知っている	知らない
桃太郎	3	0	13	0	12	0
一寸法師	3	0	13	0	11	1
花咲かじいさん	3	0	13	0	11	1
浦島太郎	3	0	13	0	11	0
おむすびころりん	3	0	13	0	12	0
かちかち山	1	2	13	0	10	2
こぶとりじいさん	2	1	13	0	12	0
金太郎	2	1	12	1	12	0
大工と鬼六	0	3	2	11	1	10
ねずみのすもう	0	3	5	8	1	10
かさじぞう	2	1	12	1	10	2
鳥のみじい	0	3	1	12	0	11

質問3

①ご自分のお子さん（在園児）に寝物語をしていますか？

②・している方は、主にどなたの役割ですか？

・どんなことをなさいますか？（絵本・素話・その他）

	20歳代	30歳代	40歳代
している	1	8	10
していない	2	5	2
誰が？	・母 1	・母 8 ・たまに父 1 ・祖母 1	・母 7 ・両親 1 ・母が出来ないときは父 1
どんなことを？		・絵本 8 ・素話 3	・絵本 9 ・素話 4 ・その日の出来事 1

質問 4

- ・いなさ幼稚園の先々代の松尾利信園長が口演童話の語り手、また、童話作家であったことをご存知ですか？ （知っている 7名・知らなかった 21名）

質問 5

- ①いなさ幼稚園では子ども達の言葉の世界、イメージの世界を広げるための取り組みとして、おはなし会やわらべうたを保育に取り入れていることを知っていますか？
（知っている 26名・知らなかった 2名）
- ②その取り組みについてどう思われますか？
- ・良いと思う 8名
 - ・親もなかなか出来ないので続けてほしい。
 - ・とても大切なことだと思うので、素晴らしい取り組みだと思う。
 - ・素晴らしいと思う。次世代に伝えていってもらいたい。
 - ・だんだん言葉遣いが悪くなる年頃なので、美しい日本語を聞き、お話のイメージを膨らませることが出来れば、とても良い取り組みだと思う。
 - ・子どもが家でわらべうたを歌っています。意味がわからず、違う単語で歌っていることもあります。が、楽しそうで良いと思います。
 - ・私自身、知らないのが多いので教えてもらってありがたく思います。帰ってきて教えてくれるので、家族に広まり楽しんでいます。

質問 6

このテーマに関連することで、ご家庭で実践していらっしゃることや、お考えがあれば、是非お聞かせ下さい。

- ・絵本の読み聞かせをたくさんする。(2名)
- ・たまに日記を書くようにしています。今日何があったのかを聞いても「何もなかったの」と言うので、「お友達で誰が好き?」「何して遊んだ?」と聞いて具体的に書けるように促しています。
- ・遊びやお話をしていく中でも、子どもが自分でイメージの世界を広げられるようなことばかけをする。
- ・子どもから何か質問されたときには、空想が広がるような答え方を自己流でやっています。
- ・お風呂に入るときに、最初だけ私（母）が話して、後を自由に物語を作って話してもらう。
- ・最近はずいぶん忙しいから、疲れているからと、iPad やゲームに子守りをお願いしているような気がします。もっと子どもとふれ合う時間を取らなくては！と反省しています。
- ・ことばやイメージの世界を広げるという意識が、私（母）自身低かったように思います。家では、テレビに頼ってしまいがちですが、子どもと一緒に本を読んだり語り合う時間をもっと作ろうと思います。
- ・私が小さい頃はテレビで日本昔話があったので、大好きでよく見ていました。今ないのがすごく残念です。実家の祖母が、100歳くらいになりますが、小さい頃寝る前によく昔話を話してくれました。こんな事したら駄目なんだとか、人に優しくしよう、こうやったらうまく出来る等、子どもながらに感じていたと思います。幼稚園でもおはなし会やわらべうたを取り入れてくださっているのありがたいと思っています。
- ・自分が幼児の時に先生に読んでもらった「ロボットカミイ」「フライパンじいさん」「ももいろのきりん」等を読み聞かせている。

IV、研究の結果、考察、これから...

①おはなしのやり方について

今更ながらに思うことは、今、私たちが取り入れているおはなしと、祖父がやっていた口演童話には、語り方に大きな違いがある。

私たちがしているおはなしのやり方は、東京子ども図書館の松岡享子先生達が、アメリカの図書館で学んでこられたストーリーテリングと呼ばれていたもので、お話をテキスト通りに覚えて、オーバーな表現や身振り手振りは使わず、おはなしそのものを伝えましょうというやり方で、それを、忠実に実践してきた。

それに対して、口演童話は少し声色を使ったり、身振り、手振りも入るのではないかと思う。

利信の語り 小長井の民話「鬼が泣いた話」(昭和 51 年録音)

長年研鑽を積んできただけあって、率直に「うまい！」と思うと同時に、こういう語りの方が、子ども達に伝わりやすいのだろうか。とも思えてきた。

これから、どんな語りをしていくかについても検討し、実践していきたい。

②子ども達の言葉やイメージ力を育てることについて

結果が顕著に出るようなテーマではないと思う。

もしかしたら、子ども達が大きくなってからしかわからないこともあるだろう。

しかし、こういう保育でしか育てられないことも確かにあると考える。(研究者の見地から、共同研究発表者の上出先生に考えを聞きたい)

これからも、今やっていることは続けていきたいが、先生達がお話を「覚えて語る」というのは、すぐには出来ることではないと思う。

短い詩や、ごろあわせなどは、比較的覚えやすいし、おはなしへの導入にもなる。また、ほかにも、保育の中で取り入れられる活動は、他にもいろいろあるので、園内研修等で取り上げ、実践していきたい。

③園の歴史の重さを感じ、誇りを持って仕事をしよう

自分たちがどんな園で仕事をしているのか、これまで知らなかったことを、今回、確認することが出来た。

90年の歴史の重みを感じ、誇りを持って仕事をしたい。

引き継いでいきたいものは何なのか？

もう一度みんなで確認し合いながら、子ども達にとっていい保育を目指していきたい。